1959年1月31日第3種郵便物認可

週刊 うたごえ新聞

4／1 (1991年) NO. 1346

THE SINGING VOICE OF JAPAN
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2—16—36
☎03(3209)0638 FAX 03(3200)0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)

『人を動かすな い仕事を』

ときめきインタビュー
映画評論家 おすぎさんに聞く

鋭い批評で注目をあつめるこの人おすぎこと、杉浦孝昭氏にインタビュー。映画評論家のおすぎさんの痛快な指摘のなかから考えてみたい。インタビュアーは「映画は大好き、かたっぱしから観る」というシンガー&ソング・ライターの梅原司平氏。

梅原 初めまして。ちょうど数日前、雑誌「話の特集」におすぎさんがちょっと書いておられるのを読みました。

おすぎ なんでしたでしょう？ 忘れましたけど。（笑い）もう書いてしまったものってあんまり参考にならないと思いますけどね。

梅原 あの中でも思ったんですが、ここまではっきり言えるって何なんだろうってことですが？

おすぎ 普通に考えておかしいことって、やっぱりおかしいって言わなきゃいけないんじゃないですか？

梅原 なかなか日本の評論家ってはっきり言わない。そんな物足りなさをいつも僕は感じているんですが。おすぎさんの批評は、うん、よく言ってくれた、それもメジャーなところでというのはうれしいですね。

▲インタビュアー・梅原司平さん（シンガー&ソング・ライター）

○○～言いたいことの1/3も言ってない

おすぎ そうですか。言いたいことの三分の一くらいしか言ってないんですけどね。レギュラーになりますと、それが食べる糧になってきますよね。そうすると丸くなってくるんですよ。だから、どこかおもんばかったようなしゃべりかたになってくるんだと思いますよ。

梅原 僕はうたい始めて二十年近くになりますが、最近よく思うんです、結局ひとつひとつ丹念にお客さんと結びついていくしかないなと思っています。

こういう僕の生き方の一番のきっかけになっているのが、どうも僕の場合、「怒りのぶどう」っていう映画にあったように思うんです。まったくのノンポリだった僕が、少しづつ世の中に目を開いていくひとつのきっかけを与えてくれた映画だったような気がします。

おすぎ おすぎさんの印象に残っている映画といいますと？

おすぎ あんまり今おっしゃったようなところでの経験はないですね。もう三つの時から映画観てて、たくさんの映画を観ていくなかでの影響はあるでしょうが。例えば、「2001年宇宙の旅」、これはもう映画というより、宗教書に近いものだと思いましたし、アラン・ドロンの「太陽がいっぱい」を観て、この人に会いたいな、という思いはありましたけれども。

この間も自分の生き方をピーコとふたりで振りかえってたんだけど、これはいけないことなんでしょうが、その時その時いきあたりばったりの生き方だったわけですよ。

（4、5面につづく）

おすぎ（本名＝杉浦孝昭）
＝映画評論家
1945年1月18日生。神奈川県横浜市出身。横浜市立桜ヶ丘高校卒業後、阿佐ヶ谷美術学園デザイン専門部卒業。
デザイナーの後、歌舞伎座テレビ室制作を経て、映画評論家となる。ラジオ番組で、ピーコとコンビを組んだのをきっかけに「おすぎとピーコ」として活躍。
ラジオ、テレビの出演、講演や映画祭出演、トークショー等の他に、新聞、雑誌、PR誌等に執筆や対談、映画やテレビドラマに役者として出演しており、各方面で活躍中。
著書「男はこんな料理（おんな）が食べたい」「おすぎ対談・男を知るための12人」（主婦と生活社）、「捨て鉢ほめ捨て捨て台詞」（話の特集社）、淀川長治共著「おしゃべり映画館」（マドラ出版）他、月刊、週刊誌多数に執筆。

今週号は他に

太鼓奏者・林 英哲氏（3面）
国鉄連鎖文化集会の動き（6・7面）
朗読劇「あの日、あの雨」（8面）他

ふ・めんだハ

今の季節を想うのに欠かせない歌の一つが「春の小川」（高野辰之作詩／岡野貞一作曲）だ。自然のささやかな情景が音楽によってやさしく深く、心の奥から春の喜びをかもしだしてくれる。そして「めだかのがっこう」（茶木滋作詩／中田喜直作曲）は邪気のない目線がよみがえってくる。

☆ ★ ☆

この歌にちなんだ名の混声合唱団コールプワソンの招待状が本紙に来た（プワソンとは仏語で魚）。

シューベルト「ドイツ・ミサ」、中島みゆきの「時代」、岩河三郎「富山に伝わる三つの民謡」など、誠実な演奏に心打たれた。

☆ ★ ☆

合宿では朝までうたいつづけ、線路わきを大声でうたい歩くという、自称〝めだかたち〟。東京・豊島区主催コーラス教室が母体。各パート一人ずつしか集まらず、練習をやめて飲みに行ったこともあるという。二年前〝産前産後演奏会〟の後は練習会場には子どもがたくさん走ったそうだ。

☆ ★ ☆

中東湾岸戦争中、英国で放送禁止されたジョン・レノン「イマジン」。「電車の夜、ウォークマンで聴きながら、目の前の疲れたビジネスマンたちがいとおしくなった」と、指揮者の佐藤栄一氏。「イマジン」の平和のメッセージはプワソンにも届いていた。

☆ ★ ☆

このような人たちと手をつなぎ心寄せて、本紙をつくっていきたい。（彦）